

わたしの聖戦

◎◎女性が働くといふこと◎◎2

医学ジャーナリスト 植田美津江

マッサージという仕事

仕事から、あちこちに
出かける機会がある。

女性ひとりの出張とい
うのはまだ珍しいのか、
ホテルの備品はほとんど
男性向きのものばかりで、
女性にとって気になるシ
ャンブリーやソープなどの
バスグッズは、時に粗悪
な物が目に付く。女性の
社会進出が進んだとはい
っても、男性陣と肩を並
べるといふ仕事ぶりをし
ている人はまだ少ないの
だと感じる一瞬である。

夜のあいた時間にマッ
サージを頼むことも多く
なった。ホテルによって
マッサージルームがある
場合とマッサージ師が部
屋まで来てくれる場合と

があつたり、最近は大浴
場があつてそこにマッサ
ージルームが隣接してい
たりと、実に多様である。

いったいマッサージほ
ど、疲れた体をほぐして
くれる方法が他にあるだ
ろうかと思うのだ。痛い
か痛くないかのすれすれ
のところ、ツボを押さ
えながらの絶妙な手の動
き。最初は他人に体を触
られることへの羞恥心か
あるが、それも束の間、
固まったバタリがとろけ
るような感触が体中に広
がるにつれ、恥ずかしさ
も仕事の嫌なこともすっ
かり忘れてしまう。

ろう。せいぜい満員電車
の中くらいで、触れ合い
を通り越して実に不快な
時間ではない。近頃は
病院へ行っても、若い医
師は患者の体に触りもせ
ず、「触診」とは過去の
産物になりつつある。マ
ッサージされながら「凝



輸入されたのは明治中頃
のことだ。
マッサージとは、マッ
シー（揉む）というギリ
シャ語とアラビア語のマ
ス（揉みこむ）にフラン
ス語であるアジ（操作す
る）がくっついた複合語
で、あんま・指圧と並ぶ

手技三法のひ
とつに位置づ
けられている。
あんまの歴史
はさらに古く、
紀元前400
年ごろには中
国で見
受けられ、日
本に紹介され
たのは6世紀
頃である。そ
してそのあん
まにカイロプ
ラクテイクなどの近代
的的手法の技術と理論
をドッキングさせ発展し
たのが指圧だ。
どれも歴史のある「療
法」で、血行不良による
腰痛や筋肉疲労・肩こり
を解決し、内臓機能の調

整効果もある。いずれも
指定の学校で3年間勉強
し、国家試験を受けて資
格を得る必要がある。人
間相手のサービス業であ
るだけにその人間性も問
われる職種である。

国によっても少しずつ
方法が違っているという
が、そういえば中国のマ
ッサージは日本のそれと
は微妙に異なっていた気
がする。
近頃、特にストレスが
大きな問題となり、日々
のリラクゼーションや疾
病予防の必要性が重要視
される時代になった。手
軽で即効性のあるマッサ
ージのニーズは益々高ま
るばかりである。
「手技で勝負するプロ
フェッショナル」――、
本当にかっこいい仕事と
はこういう類のものでは
ないだろうか。
(財)愛知診断技術振興財
団理事・研究所長